

点訳通信

85号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028 (点字製作係直通)

3月19日のボランティア交流会で全盲聾の梅木久代^{うめきひさよ}さんの講演をお聴きしました。終始ご主人が隣に寄り添い手話通訳をされていたのですが、そのやりとりが、とても自然体でスムーズなことに感銘を受けました。コミュニケーションを取るのにいろいろな工夫をされているとのことでしたが、久代さんが「自分のことを押し出すのではなく、相手のことを思いやることが大切」とおっしゃっていたように、コミュニケーション方法は違っても、その姿勢はどのような人にも言えることだと思いました。つい先走ってしまう私も、まずは相手や周りの方を思いやる、そんな人に近づきたいと思います。
(点字製作係 ^{おくのまり} 奥野真里)



(C) WANPUG

【 休館のお知らせ 】

4月29日(水) 休館(昭和の日)
5月 5日(火) 休館(こどもの日)
5月 6日(水) 休館(振替休日)
*5月3日(日)~5月6日(水)まで
連休となります



●2014 年度点訳技術講習会修了 点訳への熱い思いを胸に修了式

2014 年度点訳技術講習会が、3月20日(金)に、半年間にわたる全カリキュラムを終えました。今年は7人の方が修了。火曜日から土曜日までの各曜日に分かれて、4月から点訳ボランティア活動に参加されます。

皆さん、とても熱心で積極的な方々です。

講習会の感想と簡単な自己紹介をお願いしました。



講習会修了生7人（前列向かって左側2人と後列）と講師2人

知らない言葉を覚えて、新たな世界を楽しみたい

やまね まきこ
山根 真紀子さん（火曜日）

こんにちは！ 文鳥と阪神を愛する大阪人、山根です。

正直いうと点訳は、点字の五十音を覚えて、ワードを打つ感じかなあ、くらいに考えていました。

……が、「助詞？」「複合名詞??」「和語??？」

若い頃の不勉強を反省し、知らない言葉や物事を覚える機会をいただけたことに感

謝しています。

日々コツコツと、固くなった頭と指を鍛え、少しでもお役に立てるよう頑張ります。どうぞ、よろしくお願いします！

いつか絵本や児童書の点訳がやれたらいいな

はまだ えみ
濱田 恵美さん (水曜日)

初めまして。濱田恵美と申します。

今回、講習会に参加したきっかけは、偶然見つけた、この点訳技術講習会参加募集の新聞記事でした。

以前、図書館で点訳本を目にしてから、関心があったので、すぐに申し込みをしました。

講習会が始まると、自分の国語力のなさに、がっかりしたこともありましたが、今まで知らなかった新しいことを学んでいくのは、とても楽しい時間でした。

これからも、学ぶ姿勢を忘れないで、いつか、絵本や児童書の点訳ができるようになれたらいいなと思っています。

どうぞ、よろしくお願いします。



点字との出会いは20年以上前のイギリス

いけだ そのこ
池田 園子さん (木曜日)

私と点字との出会いは、今から約20年以上前、夫の転勤で子ども2人を連れてイギリスのエジンバラに行ったときのことで、そこは、子どもの送り迎えをしていた学校の近くにありました。視覚障害者協会のオフィスのような所でした。1対1で私に点字を教えてくださいましたのは、年配の盲人の男性でした。英語も不十分な私に優しく話をしてくださいました。しっかり身につく前に、夫の転勤で日本に帰国。帰国後は、子育てと仕事に追われ、点字に接する機会を持ちませんでした。

ところが、昨年、またまた夫の転勤で大阪に引越してきて、ライトハウスと出会ったのです。この再会を大事にして、点訳を頑張っていきたいと思います。

真剣に学ぶ子どもたちを専門的に応援したい

のざき いさこ
野崎 功子さん（木曜日）

はじめまして。点訳講習受講生の野崎です。講師の奥野先生の楽しい講義と講習補助の雪岡さんの温かいフォローのおかげで落ちこぼれながらも毎週楽しく受講させていただいています。

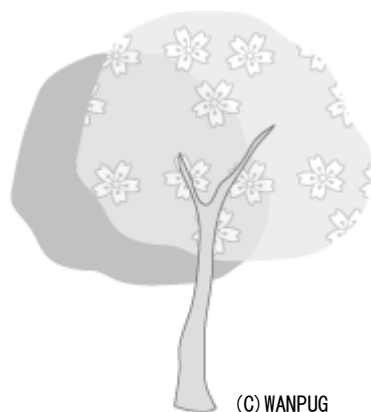
私が点訳ボランティアに興味をもったのは、アルバイトで目や耳や体の不自由な学生の支援をしたことがきっかけです。不自由さをもちながらも真剣に学び、研究に取り組む学生たちの姿を近くでみるうちに、学びたいという気持ちを専門的に応援したいと思うようになり、点訳の世界に入門させていただきました。まだまだ点訳ボランティアの卵にもなっていないような状態ですが、いずれは子どもたちの学びたい気持ちを応援する点訳にかかわれたらと思っています。ご指導よろしく願いいたします。

自分にできることを探して点字にたどり着いた

くりす しのみ
栗栖 忍さん（金曜日）

はじめまして。栗栖と申します。大阪に越してきてからもうすぐ2年半になります。一人っ子のせいか、または道産子のせいか、おっとりしてマイペースな性格のようです。よく図書館を利用しますが、読みたい本が手元に届くまで時間がかかることも多く、いつも残念に感じていました。点字の本も同じように待っている人が多いのではないかと思い、自分にできることはないかと探しておりました。そうしてライトハウスのサイトにたどり着き、研修もなんとか無事終わられそうです。

これからもまだまだ勉強ばかりですが、よろしく願いいたします。



(C) WANPUG

恩返しに1冊でも多くの本を提供できたら

みなみ かな
南 佳奈さん (金曜日)

こんにちは、南佳奈と申します。

私が点訳ボランティアをしようと思った理由は…。

私自身、小さいころから視力が悪く、メガネやコンタクトレンズにお世話になってきました。カレらにお世話になっているお返しを何かできないかな…と以前から考えていた時に、こちらの講座とご縁があった次第です。

視覚障害者のみなさまに1冊でも多くの本を点訳し、提供できればと思っております。

お手数やご面倒をおかけすると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

思いを届けたくて飛び込んだ点字の世界

いりえ ともこ
入江 知子さん (土曜日)

はじめまして、入江知子と申します。

昨年10月から、点字の世界に飛び込んで半年がたちました。50音をやっと覚えた喜びから、分かれ書きの難しさに何度もくじけそうになりながらも、ようやくここまでたどりつきました。

こちらの講習会に参加したきっかけは、仕事で、視覚障害の方と接することがあったからです。お伝えしたいことをどうしたら、わかりやすくお伝えできるかを考えていたら、点字を覚えることが、一番だと思いました。

講習会で、点字のことを詳しく教えていただく中で、点訳のおもしろさに気づきました。

点字図書を待っている方が、読みたいと思う本をすぐ手にすることができればいいな。と、思っています。

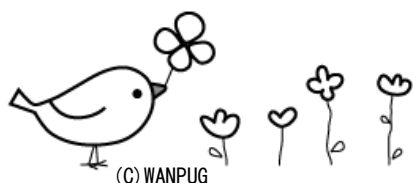
よろしく願いいたします。



●講演会とワークショップレポート

「ひろがれ点字」—— 積み重ねが花開く

おくのまり
点字製作係 奥野真里



3月7日（土）午後、点字に関する講演会とワークショップ「ひろがれ点字」が、当館主催で開催されました。主に、特別支援学校や、地域の学校の特別支援学級で点字使用のお子さんを担当する先生方を対象とし、お子さんへの点字の指導方法やポイントについて学びました。今回は大阪府立視覚支援学校、大阪市立視覚特別支援学校のご協力の下、当日は23名の方にご参加いただきました。

○点字指導は褒めることから始まる

講師をしていただいた大阪府立視覚支援学校まつしたみきおの松下幹夫先生は、38年にわたり、小学部で視覚障害児童生徒の点字指導に従事されてきました。

児童が特別支援学校の小学部に入学すると、点字学習が始まりますが、いきなり点字に触れるわけではありません。まず、手や指先の感覚訓練をします。視覚障害者にとって手や指先は、晴眼者の目と同じ役割を果たし、文字を読むだけでなく、立体物の形や大きさを触って確認したりするほか、「ざらざら」、「つるつる」という手触りや、温度、重さを感じるなど、いわば、手や指先から多くの情報を取り入れます。生活を豊かにしていくための情報源としての機能を果たす感覚器官を研ぎ澄ます訓練を最初にしっかり行うのです。

それをクリアすると、今度は両手の指先で線をたどる練習をします。まっすぐ「⠄」の文字が書かれた直線をたどる練習。「⠄」の直線をたどる練習。「⠄」が書いてあるところ、マスが空いているところを見極める練習。「①②③」、「④⑤⑥」の点の位置、「①④」、「②⑤」、「③⑥」の違いなどが分かるようにする練習、といったことが行われます。一見、簡単そうに思えるこのトレーニングも、実際指先でなぞるとなると難しく、確実なものにするまで反復練習をさせられるため、とりわけお子さんにとっては単調な内容で、まぎれもなく苦痛なものに他なりません。そこで、松下先生はできるだけお子さんを「すばらしい！」とか「天才や！」のように褒めるようにしているそうです。そうしてお子さんの意欲を維持させて、次のステップへと導いていきます。

○一文字ずつ追うのではなく、単語で認識できるように

点の認識ができるようになると、文字を覚えて、いよいよ単語の読み方練習に入ります。点の認識ができるようになったからと言って、急に点字の文を読むことに入るのは禁物だと先生は言われます。将来的にスピードを維持して読めるようになるには、この段階が大切なのです。また、点字指導は読み書きを同時に行うのではなく、読む指導から入るのもポイントです。「①、①⑥」、「①②、①②④」のようなマス数の短いものから始まり、6マスくらいの単語が読めるようになると、いよいよ文を読むようになります。

このとき、一文字ずつ追っていくのではなく、いっきに単語として認識できるようになると、その後もスピードを保ちながら読書をする事につながるそうです。個人差はありますが、小学校1年生で1分間にだいたい150マス程度読めるようになるのが一般的な目標値のようです。このようなきめ細かな指導が日々行われてこそ、視覚障害のお子さんが自由に読み書きできる文字として点字が定着していくのです。

そのためにもお子さんに、一日に何度も点字に触れるよう習慣づけていくことが大事です。お子さんが点字に触りたくなるよう、楽しく導くことが大人の役割なのでしよう。

○指先の情報から全体像を描く

後半は点図のワークショップを行いました。まず、松下先生がおっしゃっていた、お子さんが初期のころに行う直線を両手でたどることを実際に目を閉じて体験しました。

図を触るとき、指先に触れた小さな情報を、指先や手を動かしながらイメージとしてつなぎ合わせていき、図の全体像を組み立てていきます。視覚的な情報とは違い、この組み立て作業も時間がかかります。

次に、「東京スカイツリー」と「通天閣」の点図に触れました。アイマスクを付けた先生方は、最初は何かわからない様子でしたが、「建築物です」とヒントがあると、「ああ〜」という感嘆の声が聞かれました。「一つはタワーのようなものですね」、「もう一つは虫みたいに思えます」、「小さな方はお花ですか？」と次々と声が上がりました。

そうして、アイマスクを取って図をみると、全員が納得という様子でした。さらに、両方の立体模型が前に登場すると、歓声が湧き上がりました。

図を理解していくとき、ただ単に、図を触るだけでなく、用意できれば図と同じ立体物を触って確認します。同一のものを3次元と2次元で表すとそれぞれどうなるのかを合わせて知ることも、お子さんが図をイメージとして組み立てていく上で重要な

ことなのです。

先生方はたいへん熱心に講演とワークショップに耳を傾けてくださり、終了後も質問が絶えない状況でした。

個々によって学習環境が異なり、お子さんが点字を学びたくても、周囲がそのノウハウを持ち合わせていないために、点字を学習する機会を逃しているお子さんももしかしたらいるかもしれません。一人でも、多くのお子さんが点字を学べる機会に出会ってほしい。そして、「点字の本を読みたい」と思ってくれるような点字図書を私たちは1冊でも多く製作し応援していきたいと思います。

〈お知らせ〉

●第28回専門点訳講習会「東洋医学コース」を開催します

5月12日～8月4日（7月28日は休み）

毎週火曜日 13:30～15:30（7月21日と8月4日は16:30まで）

全12回

（詳細は、後日、ホームページなどでお知らせしますので、ご確認ください。）

●点字表記検索システム「点訳ナビゲーター」がスタート！

ご存知の方も多いと思いますが、今年の2月6日から、全国視覚障害者提供施設協会（全視情協）の点訳委員会が中心となって製作した点字表記検索システム「点訳ナビゲーター」が一般公開されています。これは、インターネット上で誰でもいつでも手軽に点字表記について検索できるシステムで、特別なIDやパスワードなしで利用できます。

このサイトは、これまでに全視情協が発行している「点訳のてびき第3版」、「初めての点訳」を始め、それに関連した「点訳のてびきQ&A」「点訳のてびきQ&A第2集」「指導者用ハンドブック」などから語例を集めて掲載しています。現在、約1万3千語が収録されています。分かち書き、アルファベット表記、数的表現の書き方などについて、ひらがな・カタカナ・漢字・アルファベットのいずれでも検索することができます。

ご自宅での点訳作業中に点字表記の判断に迷ったときは、この「点訳ナビゲーター」にアクセスして、利用していただくことができます。ただし、当館の表記基準とは異なるケースも少なくありません。これまでどおり最終的には当館の基準に拠っていただきたいと思います。あくまでも臨時の参考資料としてお使いください。

「点訳ナビゲーター」 <http://ten-navi.naiiv.net/>